

2012.12.25

「来年は安倍内閣で国力回復を期待」

こんにちは、参議院議員の西田昌司です。本日は12月25日です。クリスマスの日ですが、明日26日に安倍内閣発足が予定されています。私もこれから東京へと向かいます。安倍内閣が誕生し、民主党政権によってどん底にまで落ち込んだ経済や外交といった国力を1日でも早く回復するよう期待しています。また、安倍内閣の閣僚については新聞などで予想がされていますが、まだ正式に発表されておきませんので論評は差し控えさせていただきます。

本日、ご紹介したいのが西部邁先生の「どんな左翼にもいささかも同意できない18の理由」です。読んでみた感想ですが、さすが西部先生という本でした。

この本の最初に腐儒という言葉が出てきます。明治維新の折に、日本の近代化、脱亜入欧を訴えた福沢諭吉が、頑迷固陋に思考停止に陥った儒学者を初めとした知識人を指して使った言葉です。現代で言えば、この腐儒は左翼です。占領下、アメリカによって強制的に啓蒙させられましたが、未だにその価値観を頑迷固陋に守り、その価値観がそぐわない現実を見ようとしない、ということを書いておられます。まさしくその通りで、西部先生には今でも週に一度はお話させて頂く機会をもっていますが、二十年近く私淑させて頂いております。

この思考停止を打ち払い、少しでも良い社会を作ろうと思うと、戦後の価値

観、戦後史の否定になります。しかし、これを一挙に行うことは不可能です。例えば、私は現憲法を破棄し、明治憲法に一旦戻した上で憲法改正するべき、というのが持論です。ですが、残念ながら一挙にはできない。戦後の社会は序々にしか直していけないところがあるのです。

今回安倍政権が誕生し、保守系の方々からは非常な期待を持たれています。ですが、残念ながら安倍政権ができて一挙に戦後の問題は解決できません。ですから、この一挙にできない点についてご批判はあるでしょう。ですが、人間社会は段階を追って漸進的に改善していかないと上手くいかないことは歴史が証明しています。この、一気に社会を変えることは出来ない、ということ踏まえて、保守はどのような行動をとるべきか、ということを考えなくてはなりません。

明日から始まる安倍政権には大変期待をしております。来年は私にとっても任期満了の年になります。参議院にも様々な役職がありますが、これらはできるだけ辞退をして、地元の方々のお話を聞く機会を増やしていきたい、と思っております。その一方で、国会やこのビデオレターを通して皆様方に情報発信をしていくことは続けたいと思っております。民主党政権の混迷した三年が終了し、来年からは本当の意味で新しい春が迎えられと思います。皆様方におかれましても、良い一年を送られますことを祈念して本年最後のビデオレターを終えたいと思います。ありがとうございました。